令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号:33013

学校名: 札苗北中学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 ○前回の記録より下回った種目

体力・運能力 **<男子**>

体力・運動能力

<女子>

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げ(平均値、T得点の両方)

○前回の記録と同程度もしくは上回った種目

握力、上体起こし。長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(ここまで平均値、T 得点の両方)、50m 走(平均値)

運動・スポー ツへの意識、 運動習慣 「運動が好き」R5 男子 85.9%、女子 74.7%、R6 男子 88.7%、女子 72.9%。「保健体育の授業で、進んで学習に参加している」R5 男子 90.9%、女子 84%、R6 男子 90.3%、女子 83.9%。大きな変化は見られなかった。

50m走(平均値、T得点の両方)

○前回の記録より下回った種目

立ち幅とび、ハンドボール投げ (ここまで平均 値、 T 得点の両方)、50m 走 (T 得点)

保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりする学習で「できたり、わかったり」することがよくある、だいたいあると回答した生徒は、R5 男子 73.9%、女子 76.5%、R6 男子 86%、女子 89.8%。大幅に向上している。

分析

50m走以外の種目で前年度を上回った。握力、反復 横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびではT得点で 3ポイント以上も上がり、基礎的な体力が向上してい ることがうかがわれる。

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走の種目で前年度を上回った。握力ではT得点で6ポイント以上も上がり、基礎的な体力が向上していることがうかがわれる。

保健体育の授業に進んで参加している生徒の割合は著変がないことから、体を動かす、運動そのものを楽しむことよりも、友達とかかわり合いを大切にしている生徒が増加していることがうかがわれる。

三つの取組

①体育・保健体育等の 授業の充実

授業の充実

- 「分かる」「できた」の相乗効果 を狙った授業作りを行う。
- 小中一貫した教育を踏まえ、小学校の学びとの連続性・発展性を重視する。
- 個別最適な学び、協働的な学びを 実現するための授業改善を通し て、課題探究的な学習の推進を図 る。
- 〇 走・跳・投の基本的動作の強化を 図る。
- 授業における運動時間の確保。
- 1人1台端末を利用し、動きを客 観視する。

②授業以外で子どもの 運動機会を創出する取組

- 部活動の更なる活性化を目指し、練習時間や休養日を適切に位置付けた部活動運営の工夫、検討を行い、具体的に改善していく。
- 仲間とともにルールやマナーを考え、工夫し運動することを楽しみ、親しむ生徒を育む。(体育理論を通じて)
- 長期休みの課題を通して、運動計 画と実践を行う。

③子どもが自らの 健康づくりを図る取組の充実

- 外部講師による性に関する講話の隔年 実施と、SC によるストレスマネジメン ト講話の実施。
- 特別活動における、健康教育の実施と 食育の推進を図り、お便り等で家庭へ の情報発信や啓発活動を実施。
- SOS の出し方に関する教育の推進。
- 心身共に健康であるために、家庭との 連携を図り、教科指導や特別活動、部活 動等も含め多角的な働きかけを行う。

具体的な 取組

- ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の調査結果等を活用
- ○学校独自の児童・生徒アンケートや保護者アンケート等の活用
- 〇学校評議員会・学校関係者評価等の活用

家庭・地域との連集・協働